

NPO法人ありんこに
 関する詳しい情報は
 公式ホームページ
 arinnko.sakura.ne.jp
 にて公開中！！

ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部
 編集責任者 一戸 由佳
 住所 青森県弘前市大字富栄
 字笹崎80-1
 電話 0172-96-2774
 Fax 0172-55-9591

青森県障害者虐待防止・権利擁護研修

12月25日、26日と、青森市で研修が行われました。毎年施設管理者が出席していましたが、今回初めて現場の指導員向けの研修に、やよいのあかりから2名の職員が参加しました。また、理事長も初めて設置者及び管理者向けの研修に参加しました。

指導員研修の報告は、今後研修を受講した2名が現場向けに施設内研修を行って、職員全員の共通理解を図る予定でおりますので、その際にお知らせいたします。

私は今回初めて研修を受けましたが、障害者虐待防止法が2012年に施行されてからも、施設内での虐待はなくなり、むしろ通報の義務が明確になったことにより、内部告発も含めた通報により、虐待の事実が明らかになることも増えているようです。

施設における風通しの良さは大切に、虐待の芽である不適切な支援を見直すことで、虐待が生じない環境づくりをするのは、施設設置者としての重要な役割であることを改めて学びました。やよいのあかりでも、ヒヤリハットを活用し、不適切な支援については職員が皆で話し合い、再発防止や、事故防止に努めているところです。しかし不適切な支援とはどんなことなのか、法人としての理念の中に、障害者の権利擁護に関することが盛り込まれているか、など、課題もたくさん発見することができました。

今回の研修で学んだ、法人としての理念を明確にして、職員一人一人に浸透させていくことの大切さ、理念の中に、虐待の禁止や権利擁護に関することを盛り込まなければならないことなどを、新年度の体制づくりの際に活かしていきたいと思っています。



研修報告

今年度は、相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修に、やよいのあかりから一名出席しました。

やよいのあかりでは、職員の専門性や、支援の質の向上のため、できるだけ受講資格のある職員に研修を受講してもらっています。現場第一なため、希望者が必ず出席しているわけではありませんが、出席者はその間現場を支えている他の職員たちに感謝しながら、研修終了後は学んだことを現場で生かせるように、積極的に研修に参加してきているようです。

「研修所感」(抜粋)

基本的なサービス管理責任者としての学びを通して、常に全体の把握や、状況など理解しておく必要があることがわかった。いかに利用者のニーズをくみ取れるか、また、それを実現するために、出来る事は何かの。短所の部分も考え方ひとつで長所になることも可能である。もちろん第一は利用者だが、その中でも家族のニーズも見逃すことはできない。そういうことを考え、心がけて今後に役立てていきたいと思った。

いろいろな法律を覚え、様々な福祉サービスの役割などもしっかり理解できるようにしていきたい。

職員の配置

冬休みに入り、朝から子どもたちの元気な声が響いています。職員も朝から夕方まで子どもたちと一緒に過ごすので、施設内の清掃や、駐車場、施設周囲の雪片付けなど、これまでより手が届かないこともあります。現在アルバイトの工藤美喜さんが、清掃や雪片付けに入っています。

保護者の皆さまの送迎の際などに、見かけることもあるかと思いますが、よろしくお願いたします。

インフルエンザワクチン

いちのへ耳鼻科では、ワクチン在庫不足が続いていましたが、接種を再開しました。希望される方は病院にお問合せください。なくなり次第終了です。

医療的ケア児支援体制検討部会

第2回青森県障害者自立支援協議会、医療的ケア児支援体制検討部会が、12月20日に青森市にて行われました。

今回は夏に行われた1回目の会議を受けて、推進事業の実施状況についての報告や、医療的ケア児の実態調査結果について、県内の保育所等の看護師等配置状況調査結果について、医療的ケア児支援に係る課題について、といった報告や検討がなされました。

今年度行われた人材育成の研修は、支援者・コーディネーター養成研修と、保育所等勤務看護師医療的ケア研修で、特に支援者・コーディネーター養成研修は人気が高く、希望者が受講出来ず、問い合わせも多かったようでした。

保育園の看護師向けの研修は、受講しやすいように日曜日にも設定したそうですが、母体の保育園に対するアンケート結果からは、現状では看護師のスキルが上がっても、医療的ケア児を受け入れるのには、まだ課題が多いことがうかがわれました。

また、県として家族交流支援事業が2回行われましたが、会場が2回とも青森市だったため、もっといろいろな地域で行ってほしいと要望してきました。

理事長のつぶやき

チェアスキー・バイスキー



昔は冬になると週末にはゲレンデに行き、子どもたちとスキーやそりを楽しんだものだった。自分自身も北海道出身なので、スキーは好きだ。

ここ数年、ゲレンデから足が遠のいている。子どもたちが受験生だから滑るのはだめ、と、もっともらしい理屈をつけてはいたが、要は体力に不安が出てきたのである。それに、ゲレンデに車椅子で入るのはなかなか大変だが、休日に娘を預けて出かける気にもならない。

今年雪が降った後、娘が小学部に入ってから時々誘われていた、障害者向けのスキーのことを思い出した。



バイスキー

青森県チェアスキー協会というところで、毎年レッスンを行っている。

今年は娘も私も受験生だが、私と娘の資格試験、高校入試が終わったら、バイスキーのデビューをしたいなと、密かに考えている。

気持ち良くスキーに挑戦できるように、2月6日の資格試験、全力で臨みたい。

とはいえ、この時期にスキーのことなど考えている私は、現実逃避の傾向があるか。

現実逃避と言えば、12月になり携帯電話がスマホに変わった。難しいが面白い。

あっという間に時間が過ぎ、受験生には危険である。